「私達の罪を負い、救うお方」ヘブル９：１５－２８　　１８・９・３０

Ⅰ　新しい契約の仲介者。：１５－２７

１．「キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです」：１５。

キリストは、神と人の仲介者として、神と人（私達）の事を、良く知っておられる。その為に、神であるキリストが、人となって下さった。このお方に心から感謝したい。なぜなら、私達人間が、どんなに本物の神に近づきたいと思っても、この神と人をつなぐ仲介者がおられなかったら、とうてい偉大な神に近づく事は出来ない。しかし、今、私達は、偉大で素晴らしい神に近づける！仲介者であるキリストの十字架の恵みの故に！

２．「初めの契約のときの違反」：１５

初めの契約は、：１８－２０のように、モーセが民に律法を語り、民も「主の言われたことはすべて行います。聞き従います」（出２４：７）と言ったが、忍耐深い神に対してさえ、イスラエルの民は、神に従わず、約束を破った。イスラエル人でない人々、私達も神に背き、罪、悪を行っている。公平になるように、神の律法を与えられなかった人々、私達にも、善悪を判断できる「良心」が与えられている。ローマ２：１１－１６を読んでいただきたい。

①神は、世の終わりに、すべての人を神の前に出させ、一人一人を、正しく公平にさばかれる。ある人は、「私は、一度も聖書のみことばを聞いた事がない」と言うかもしれない。しかし、その人も、神がその人の心に置かれた良心に従って行動したかで、公平にさばかれる。「人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」：２７。

②神の基準は、人間の基準とは違う。人は、外側の行為（人殺しや強盗や不正なお金の取り扱い等）だけで人を罪に定めるが、神は、外側の行為だけではなく、その行為を生み出した心の悪い思いや言葉で人を傷つける事、人をばかにする言葉、態度、不品行な目をもさばかれる。「兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。…情欲を抱いて女（異性）を見る（不品行な目で有害サイトを見る、異性を見て「あの人と結婚したほうが良かったのでは」と思い、見る）者はだれでも、心の中ですでに姦淫（うわき）を犯したのです」（マタイ５：２２、２８）。「（神の目に）おおわれているもので現わされないものはなく、（神の目に）隠されているもので知られずにすむものはないからです」（マタイ１０：２６）。私達の悪も、政治家の悪も、役人の悪も、スポーツ界で権力を持っている人の悪も。しかし、間に合ううちに、神に正直に、自分の罪を認め告白するなら、神は、主の十字架の恵みのゆえに赦してくださり、それだけではなく、私達の心をきよめ、罪の行いから離れさせて下さる！感謝します！

３．「違反から贖い出すための死（主の十字架の死）が実現した」

①「遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。遺言は人が死んだとき初めて有効になる」：１６，１７。

遺言（原語：契約とも訳せる）が、遺言者が死んで初めて有効になるように、神の新しい契約も、キリストの死（血）によって初めて有効となる。

②「ですから、初めの契約も、血（死）を抜きにして成立したのではありません」：１８。

初めの契約も動物の血が注がれることで成立した→：１９－２１。その動物の血は、イエス様の十字架の血を指し示すものだった。「みな、この杯から飲みなさい。これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です」（マタイ２６：２７，２８）。

③「礼拝に用いるすべての用具にも同様に血を振りかけました（きよめられた）。律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流す事がなければ、罪の赦し（きよめ）はありません」：２１，２２。なぜ、これほど、血が流され注がれる事が重要か？それは、「いのちは血の中にある…いのち

として贖い（滅びから買い戻す）をするのは血である」（レビ１７：１１）。罪の贖いをするためには、最も尊いもの＝いのち＝血を神にささげる。しかし、動物の血や罪ある人間の血では、とうてい全人類の罪の償いをすることはできない。そこで、

④「キリストはただ一度だけ（主の十字架の血のいけにえ、贖いの完全さを示す）、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました」：２６。

⑤「キリストも、多くの人（私達を含む）の罪を負うために一度ご自分を献げ」：２８。

私達は、非常に重いものを長時間、背負う事の辛さを知っている。その重いものを他の人が助けて、負ってくれる喜び、その重荷をおろせた時の楽さ、喜びも知っている。多くの人は、自分の多くの罪に気付かず、その罪を背負い死んでいく。そして、その罪への神の公平なさばきが、死後にある。しかし、もう一つの道がある。それは、その重い罪という荷物を、主の十字架のもとにおろすことである。つまり、正直に、自分の罪を神に告白し、その罪の為に十字架で血を流されたキリストを神、主、救い主として信じることである。その時、主は「子よ、あなたの罪は赦された」と語って下さる。そして、罪を負う代わりに、自分の十字架（私達を命を懸けて愛して下さった主の為に生きる本当の道）を負って、愛する主と共に生きる事ができる。

Ⅱ　もう一度、この世に来られる主。：２８

「キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます」：２８。

１．一度目は、約２，０００年前に、私達の罪のために、十字架で死なれる「受難のしもべ」としてこの世に来られた。「人の子（イエス様）が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来た」マタイ２０：２８。

２．世の終わりに二度目に来られる再臨の時は、主を信じている人々＝主を待ち望んでいる人々を救う（救いを完成させる、主を信じ死んだ人々を復活させ、栄光の体を与えられる、主が再臨された時、生きているキリスト者を罪のない栄光の体に変えられる）「王」として、また、この地上で主を信じないで、罪を悔い改めなかった人々を正しくさばかれる「王」として来て下さる。「神のラッパの響きとともに、主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり、それから、生き残っている私たちが…引き上げられ、空中で主と会うのです」Ⅰテサロニケ４：１６，１７